

道芝



みちしば

第64号

令和2年3月15日

水戸市青少年育成推進会議

会長 加倉井 喜正

水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課内

水戸市中央1-4-1 ☎029-306-8692

「踏まれても根強く耐え、そっと腰をおろせばやさしく憩わせてくれ、子どもたちを伸び伸びと遊ばせてくれる道芝」
みちしば

青少年若者体験活動事業



中学生交流会



青少年社会参加部会

ワクワクドキドキみんなでおどろばー！

青少年若者体験活動事業

とき／令和元年11月9日(土)
ところ／水戸市少年自然の家

本事業は、子どもたちが同じ目標に向かってグループで体験活動をし、課題を解決していくなかで、自己肯定感やコミュニケーション能力を向上させることを目的に2年前より実施しています。今年は38名の小学生が参加し、高校生会(サプリーダーズ)のリードのもとで楽しく過ごしました。

***アイスブレイク**
初対面の子どもたちと打ち解けるために、体を使いながら皆でゲームをしました。始めはぎこちなかった子どもたちも、徐々に慣れてきました。

ちも、食堂に移動する頃には、お友だちになり笑顔がこぼれていました。

*みんなでワイワイ

おにぎりづくり

ほとんどの子どもたちが初めてのにおにぎりづくりです。自分で食べられる分のご飯と、何種類もある具材を何でも自由に選んで自分だけの個性的なおにぎりを作ります。

デザートは、使ったことのない缶切りで、悪戦苦闘しながら自分たちで開けた缶詰。皆でワイワイおしゃべりしながらの食事はとても美味しく、いつも以上にたくさん食べられました。

*なかよくたのしく

レクリエーション

またホールに戻り、新聞紙でフリスビーなどを作り楽しく遊びました。

また、「おにぎりアクション」という、おにぎりの写真



をSNSに投稿し、アフリカ・アジアの子どもたちに1投稿につき給食5食(約100円)をプレゼントする企画に参加しました。こんなことが出来るのかと皆びっくりでした。



公式サイト
のQRコード

おにぎりで世界を変える？
「おにぎりアクション」

総務広報部会

青少年指導者研修会

第1回

常磐小学校における
コミュニティ・スクールの
取組状況について

とき／令和元年7月30日(火)
ところ／常磐市民センター
常磐小学校の篠原和志教頭先生より講話を頂いた後、各地域での活動等についてグループ協議を行いました。

常磐小学校では、浜田小学校とともに他の学校に先駆けてモデル指定校として、地域との交流に取り組みできました。「一本杉ふれあいのつどい」では、PTA、地域、市民センターの講座の方々と関わりを通して様々な体験活動をしたり、文化にふれたりしています。その他、高齢者との



ふれあい電話、読み聞かせ、交通安全教室、防犯パトロール、あいさつ運動、田植えの指導・支援等々、多種多様な活動で地域の方々との交流を深めています。その中で子どもたちは、自己肯定感を育み、知識を知恵に変えて成長しており、地域の活性化にもつながっています。



第8回 中学生交流会

相手意識をもつこととは？ いろいろな人との関わりを通して

とき／令和元年12月14日(土)
ところ／みと文化交流プラザ

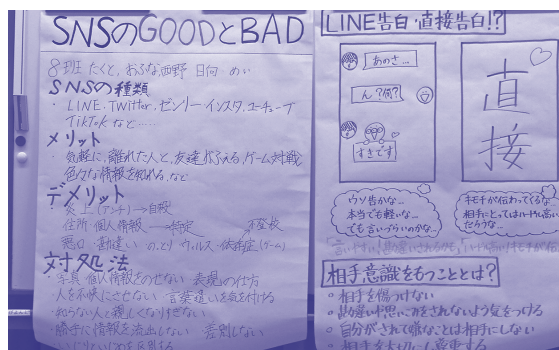
水戸市内17校より52名の中学生が集まり、参加する中学生自身が設定したテーマについて意見交換を行い、交流を深めました。

インターネットのみを対象としたテーマではありませんでしたが、どの班もSNSの話題にあふれていて、中学生は普段からSNSやゲームなどで、インターネットに密着した生活を送っていると感じました。そのような中で、中学生自身がインターネットのメリット・デメリットを考え、対策や解決策を導き出すことは、この先インターネットという道具を使っていくための大きな力になってくれるのではないかと思います。また、「自分で考え判断する力」を持つことが、自立に向けて大切なことだと思います。

中学生交流会の目的は、



「交流」です。たくさんの友だちと、たくさんの方の会話を楽しんでほしいとの思いから、笑顔で過ごすようお願いしました。また今年は、「えんたくん」という直径1mの丸い段ボールを、班ごとに皆の膝に乗せて、話し合いました。発表にも工夫を凝らし、水戸



市総合教育研究所の萩谷孝男所長からは、内容も発表の仕方も良かったとの講評を頂きました。笑顔とおしゃべりが尽きない一日を過ごし、帰り際「楽しかったー!」との声を聞くことができました。その思いと成果を自分の学校にもって帰り、皆さんに伝え、共有して頂きたいと思います。



坏哲男副会長より最後に「ウィンウィンの関係が大切。ギブアンドテイクを求めない。」との総括がありました。

第2回

青少年が抱える問題について
各地区・各団体の活動を知ろう

とき／令和元年10月23日(水)
ところ／桜川市民センター

今回の研修会は、講師を呼ばずに「円卓会議」という、参加者がグループに分かれて特定のテーマについてディスカッションをするという形式の研修を行いました。

私達のチームには、日頃から子どもたちの見守り活動をしている方がおり、その方の経験から「子どもたちの話を聞いてあげることが重要」という話でディスカッションが始まりました。



その後も参加者自らの経験に基づいたリアルな話や、「ポイントにそうなのかな?」と一般論に疑問を呈する意見など、活発な議論が行われました。

色々な意見が出た結果、最終的に「やっぱり子どもの話を聞いてあげることが重要」という結論に落ち着いたのは面白かったです。

今回の研修会では円卓会議という形式により、膝を突き合わせながら同じ地域で活動している方々のリアルな経験談を聞くことが出来てとても勉強になりました。

毎回というのは難しいと思いますが、今後も参加者自らが情報を発信できる研修会を実施できると良いと思います。

社会環境向上研修会

とき／令和2年2月1日(土) ところ／桜川市民センター

「文脈を合わせる」「コミュニケーションが子どもを変える」

講演 「発達障害への理解を深める」

講師 常磐大学人間科学部心理学教授 秋山邦久氏

地域で、職場で、家庭で、

指導者とはどうあるべきか

指導者の役目は、罰することではなく、相手に言葉を届け、変化を促すことであるはずです。ところが社会が多様化するにつれ、教育の場に限らず、地域でも職場でも家庭でも、コミュニケーションが取りにくくなってきています。どうすればよいのでしょうか。

コミュニケーションが

なぜずれるのか

コミュニケーションは「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どのように」伝える



カウンセラーとしての豊富な経験を踏まえた説得力のあるお話でした

ているか、といった要素から成り立っています。その「何を」以外の全てを合わせたものが文脈です。我々は良い内容のことを言えばわかってもらえる、と思いがちです。しかし文脈がずれていることでコミュニケーション不良になっていることが、実は多いのです。

大人の役割

例えば、「鉛筆ある？」という問いは、文脈によっては「鉛筆を貸してくださいませんか？」という意味にもなりませんが、「あるよ」とだけ答えるような子どももあります。内容は正しくても文脈次第では周囲から「貸してくれない、意地悪だ」と非難されかねません。発達に特性のある人は文脈を読むことが苦手です。それを理解した大人が「貸してくれる？」と言葉のかけ方を変えてあげればよいのです。

「1つの価値観」が行き詰まりに

新しいものを創造し世の中を支えていくような天才には、実は発達障害の人が多くいるといわれます。社会が文脈のずれを許容しなくなり、勉強のできる子、という1つの価値観に押し

込もうとするようになってきたことが、今の日本の行き詰まりにつながっているように思えてなりません。

虐待の言い分

子どもを虐待した大人の言い分を聞いてみると、大人の文脈を子どもに強いていることがうかがわれます。本来は、支援する側が相手に合わせる必要があるのです。子どもだった経験がある大人ならば、子どもの文脈に降りていくことができるからです。

観察する眼

文脈を合わせるとはどうすることか。相手を観察して、価値観の違いを「面白いな」と感心する心の余裕が持てれば、次第に文脈を合わせられるようになっていきます。子どもたちをそういうあたたかな観察の眼で見つてやってください。もちろん、指導する上で監視が必要なこともあります。必要に応じて、監視と観察を切り替えて子どもを見ることは、とても重要です。よくよく観察するなら、心から感心し、そこから自然に会話して、相手に言葉を届けることができるようになります。

結びで、今日はぜひこれだけは、と先生が挙げられたことは、子どもに対する周囲の大人のほめ方です。「それ、どうやったの?」「どこで見つけたの?」「教えてね」といった、大人の質問は、とても大きなほめ言葉になるそうです。更に、結果ではなくプロセスをほめるということ。その上で「でも、ここはこうするとよかったね」と助言すれば子どもは受け入れやすい。先生ご自身も言っておられました、これらは大人にも通じる真理であるのかも知れません。相手が子どもだからというので、忘れてしまわないようにしたいものです。

市統一マーク

県統一マーク

こどもを守る家

問い合わせ先 水戸市生涯学習課内

TEL 029-306-8692(直通) FAX 029-306-8693

Eメール: seisyounen@city.mito.lg.jp

本推進会議の地域・環境部会が各地区青少年育成会との取り組みを支援しています。

君もサブリーダー になろう!

一緒に活動して
みませんか

水戸市サブリーダーズ会連絡会(高校生会)は、市内に居住または通学する高校生により組織され、休日や長期休校日などに、市や子ども会の活動の補助指導者として子どもたちと一緒にゲームやレクリエーションなどを行います。入会希望者は、電話でご連絡ください。子どもが好きな人、ボランティアに興味がある人、大歓迎です。随時募集しています。

▶年会費／350円

▶申込み・問合せ／

生涯学習課

(☎029-306-8692)

twitter



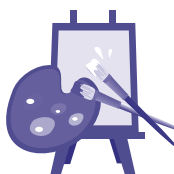
「家庭の日」絵画・ポスター・作文 コンクール 表彰式



表彰式(11月30日)



イオンモール水戸内原にて展示(11月27日～12月3日)



入賞・入選者二覧

敬称略

絵画・ポスターの部

●最優秀賞

安藤 陽菜(浜田幼5歳)
大金 瑠華(笠原小3年)
萩原 実咲(笠原小6年)
海老澤 琉夏(石川中2年)

●優秀賞

大津 瑚春(寿幼5歳)
長谷川 深央(酒門幼5歳)
富田 実楠(酒門小3年)
戸田 晃(双葉台小3年)
大谷 聡実(石川小5年)
阿久津 大智(渡里小6年)
小坪 彩花(飯富中3年)

●入選

飛田 葵(見川幼4歳)
永野 麗(笠原幼5歳)
浦野 未悠(常磐幼6歳)
宇留野 真悠(柳河小1年)
和地 唯希(渡里小1年)
藤田 恋美(吉田小1年)
佐藤 豊優(内原小1年)
田所 清杜(五軒小2年)
高橋 蒼来(常磐小2年)
小野村 樹(石川小2年)
飛田 章人(飯富小2年)
江橋 久麗愛(上中妻小2年)
庄司 環(稲荷第一小2年)
金澤 璃央菜(鯉淵小2年)
中川 愛菜(三の丸小3年)
眞柄 祐音(城東小3年)
助川 瑠乃暖(河和田小3年)
富田 陽大(千波小3年)
青田 佳音(吉沢小3年)
神長 遑生(稲荷第二小3年)
鈴木 良典(妻里小3年)
福島 佑衣(三の丸小4年)
川上 由紗(吉田小4年)

作文の部



●最優秀賞

木村 颯太(渡里小2年)
和田 舞羽(吉田小5年)
勝二 萌々花(石川中3年)

●優秀賞

石田 翔夢(城東小3年)
田中 美有(石川小3年)
笠原 綺乃(双葉台小4年)
宮部 琳夢(稲荷第一小6年)
永井 諒(内原中1年)
塩山 明日香(赤塚中3年)

●入賞

会沢 禰士(三の丸小1年)
井出 ちはや(五軒小1年)
佐藤 優衣(常磐小1年)
江幡 蓮太郎(千波小1年)
磯崎 紗那(稲荷第一小1年)
宮本 陽菜(内原小1年)
小坪 結仁(飯富小2年)
飯島 啓太(笠原小2年)
水品 菜優(赤塚小2年)
五十嵐 鷹駕(吉沢小2年)
村松 茉央(稲荷第一小2年)
金澤 璃央菜(鯉淵小2年)
今野 美月(新莊小3年)
安藤 爽(寿小3年)
生天目 紗良(柳河小3年)
佐竹 美佑(吉田小3年)
福島 惟月(梅が丘小3年)
坂倉 希来(双葉台小3年)
谷中 優誠(妻里小3年)
河上 和仁(三の丸小4年)
田寄 理菜(寿小4年)
宮田 紫叶(上大野小4年)
石川 美里愛(柳河小4年)
根本 紗由奈(渡里小4年)
小橋 愛(千波小4年)
海保 颯佑(吉沢小4年)
萩野 谷みゆ(鯉淵小4年)
遠藤 颯太(妻里小4年)
櫻岡 南菜子(五軒小5年)
寺門 真彩(常磐小5年)
加藤 木優菜(飯富小5年)
福上 心(梅が丘小5年)
平澤 依菜(笠原小5年)
水品 友里(赤塚小5年)
石井 丞(稲荷第一小5年)
川松 汐里(内原小5年)
内藤 姫和(新莊小6年)
長澤 遥(石川小6年)
長山 葉(上中妻小6年)
高野 叙(第二中2年)
住谷 日向(飯富中2年)

令和
元年度

青少年健全育成茨城県推進大会

と き／令和2年2月5日(水)

ところ／アダストリアみとアリーナ

青少年育成団体やPTA、学校関係者等、約1,500人が参加し、中学生の主張発表や「始めの一步！孤立ゼロの地域づくりを目指して ～深めよう 繋がろう～」をテーマとしたパネルディスカッションなどに耳を傾けました。

あいさつには「あいさつがある「おはよう」から始まる「あいさつ・声かけ運動」として、会場の参加者全員であいさつから始まった今大会。県内の青少年育成関係者が一堂に会し、相互に果たすべき役割と責務を再確認することを目的に、自由参加型として毎年開催されています。

最初の中学生の主張発表では、県知事賞に選ばれた筑西市の中学3年生が「地球の反対側にあつたもの」を、県議会議長賞に選ばれた水戸市立第一中学校1年の井上巧基さんが「僕のミッショーン」水戸の自然を守る」を発表し、それぞれ自分の中で使命感を持ち行動していこうという強い想いを訴え、会場から大きな拍手が送られました。

近年、宅地開発などにより自然環境が失われていきます。夜のランニングを通してカブトムシやクワガタが確認できた場所から森林が消え、ザリガニやメダカが生息していた水路はきれいに整備され、寂しい気持ちになります。昆虫は生態系を正常に機能させるために必須のものであり、次世代を担う青少年たちと考えるべく話し合いの場作りが必要と考えます。

パネルディスカッションでは、昨年8月に茨城県青少年育成協会主催で行われた合同研修会のテーマである「地域を編む孤立ゼロプロジェクト」を引き継ぎ、3人のパネリストとともに、困難を抱える子ども・



話しているの？」の2つです。名前を聞くと、次の質問として何して過ごしているなどに繋がってしまします。

話し合った内容は、途中経過で明確な答えが直ぐには出ません。また、行政だけでは解決できない問題です。青少年団体や市民活動団体が地域と手を組み、地域の宝である子どもたちの健全な育成のため、自分たちの特性の中で出来ることから活動していきたいと思える研修会でした。

若者に係る諸問題について、どう考え支援をしていくかについて話し合いを行いました。

話し合いでは、平成の世相の一つに、「今だけ、金だけ、自分だけ」という「3だけ主義」が今の地域社会の表現として適切だろうと言われています。人は独りでは生きることができません。幸せに生きるためには、人間の工夫として社会のつながりが必要です。そして、引きこもりは社会が面倒をみるべきですが、その幸せの装置が出来ていないのが現実です。

問題は私たちの暮らし方にあり、子どもの居場所やたまり場が無くなってきたことが挙げられます。また、親が変われば子どもも変わると言われていますが、困難を抱える子どもが、親に抱えられ、それがプレッシャーになっているので、相談しやすい体制を整えることが大事です。そしてNGワードは「名前は何？」

さて、今日「少子高齢化」や「核家族化」が進む多様な社会の中で、近隣との付き合いが希薄となり、「絆」が弱くなっています。また、パソコンやスマートフォンの目まぐるしい発達により、子どもたちを取りまく環境の変化においても昔と比べ大きく変わってきています。皆さんは日々の生活の中で、コミュニケーションの充実を図られているでしょうか。コミュニケーションには、「face to face」がとても大切です。「変わるもの・変わらないもの」ということがあります。コミュニケーションの基本的な時代も同じです。今一度日々の自分を振り返り、日々のコミュニケーションについて考えてみてはいかがでしょうか。

時代の変化の中で

さて、今日「少子高齢化」や「核家族化」が進む多様な社会の中で、近隣との付き合いが希薄となり、「絆」が弱くなっています。また、パソコンやスマートフォンの目まぐるしい発達により、子どもたちを取りまく環境の変化においても昔と比べ大きく変わってきています。皆さんは日々の生活の中で、コミュニケーションの充実を図られているでしょうか。コミュニケーションには、「face to face」がとても大切です。「変わるもの・変わらないもの」ということがあります。コミュニケーションの基本的な時代も同じです。今一度日々の自分を振り返り、日々のコミュニケーションについて考えてみてはいかがでしょうか。

(青少年社会参加部会副部長 梶 正憲 記)

うちの子どもたち

⑩



昨年は元号が変わり、「平成」から「令和」となりました。その新しい時代において、私たちは期待を胸に抱いて日々生活しています。「持続可能な社会」と言われている中で、これからの未来が今よりもさらに良くなっていることを願っています。しかし、一方で、昨年は台風19号による被害など色々な出来事もありました。今から9年前、私たちは東日本大震災に見舞われました。この水戸市においても、甚大な被害に見舞われ、電気・ガス・水道といった重要なライフラインも寸断され、私たちは未曾有の経験をしました。互いがその日々苦しい被災生活の中で、見ず知らずの人たちと協力をし合い、困難にも立ち向かうことが出来ました。これほどに「絆」という言葉が、大切と感じさせられたことはこれまでになかったかと思っています。

記

当日、9時のスタート直前に小雨が降り始めました。応援中は見事な天気雨となりましたが、ランナー達は雨もなんのその、先頭ランナーは、県庁手前(約6^{キロ})を18分台で駆け抜けました。その後に続くランナー達の元気に圧倒され、仮装のランナーに微笑まされました。今年も、力の入る応援でした。





▲「きれいな花火」 笠原小学校 3年 大金 瑠華



▲「キャンプでトランプたのしいね」 浜田幼稚園 5歳 安藤 陽菜

「家庭の日」絵画・ポスター最優秀作品

編集後記

「道芝」が果たす役割・大切さ
道芝の意味は、「踏まれても根強く耐え、そつと腰をおろせばやさしく憩わせてくれ、子どもたちを伸び伸びと遊ばせてくれる」とあります。

子どもたちを育てる企画として「青少年若者体験活動事業」「中学生交流会」「青少年指導者研修会」など様々な企画が工夫され、体験活動や交流活動で学ぶ事の大切さが報告されました。

「ワクワクドキドキみんなであそぼう！」では、子どもたちが同じ目標に向かって体験する活動報告、みんなで初めて体験するおにぎりづくり。悪戦苦闘しつつも作る楽しさや、食べる味わいを、感動と言う形で貴重な体験を味わった様です。
(桑名)

編集委員 (○委員長)

○吉川 幸江 常澄
本郷 きぬ子 (育成者)
石野 奈緒美 (育成者)
橋本 隆志 (一中)
綿引 浩子 (飯富)
相羽 晴子 (五中)
三村 達哉 (石川)
江沼 昌子 (二中)
戸崎 弘力 (国田)
綿引 弘美 (緑岡)
吉富 静四 (中)
中村 典子 (見川)
薄井 光栄 (双葉台)
桑名 サチ子 (笠原)
井川 健一 (内原)

令和2年度 水戸市青少年育成推進会議 定期総会

日時 令和2年4月25日(土)
午前9時30分
場所 水戸市役所4階 中会議室